

題材 「給食を作ってくれるかたへ、ありがとうを伝えよう」

対象：小学校低学年

題材設定の背景

現代社会では、自分が食べたいときに食べたい物を自由に食べる風潮が強く、子どもにもその影響は見られる。幼児のときから、自分の食べたい物中心の食生活を送り、小学校に入ってから給食に慣れずに、好き嫌いが多い子どももいる。そして、その指導に苦慮するというのが教師の困り感として挙げられている。

「栄養があるから、残さずに何でも食べよう」という指導法では、低学年の子どもにとっては効果があまり期待できないと考える。ここでは、給食を作る人への感謝の気持ちをもたせることで、がんばって給食を食べようとする意欲を高めていきたい。

「生活学習習慣の育成」研究委員会データによる

ねらい

毎日食べている給食が届くまでの背景について知り、そこで働く人々への感謝の気持ちをもたせ、給食を残さず食べようとする意欲を高める。

	活動の内容	主な指導・支援
活動の開始	<p>給食がどうやって自分たちのところまで届いているのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人がかかわっている ・いろいろな所から来ている <p>給食室の方が自分たちの給食を作っている様子をビデオで見る。 (生活科の時間に、給食室探検をしておくとうい)</p> <p>給食を作ってくれる方の変さや給食を作っているときの思いを話し合い、本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳図を出し、そこから逆に、給食ができるまでの過程をたどらせ簡単に図示する。 ・板書した図に、そこにかかわる人をカードに書いて貼っていき、たくさんの人が給食を支えてくれていることに気付かせていく。 ・給食を支えている一番身近な調理師の方の写真や働く様子を写真やビデオで見せ、その大変さを想像させる。 ・給食室で使われているしゃもじやひしゃくなどの大きな道具を実際に扱ったり、重たい鍋や食材のかごと同じ重さのものを持ったりして体感させる。 ・調理師の方の仕事の変さや思いを考えさせ、感謝の気持ちを伝えるために、何か自分たちにできることをしたいという思いをもたせる。
	給食室の方に「ありがとう」の気持ちを伝える方法を考えよう	
活動の展開	<p>ありがとうを伝える方法を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙 ・ビデオレター ・プレゼント ・食事のあいさつをきちんとする ・残さず食べる ・食器をきれいにし返す <p>など</p> <p>自分でできることを選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの食器や牛乳パックの返却の様子、残菜の様子などの写真を提示し、感謝を伝えるための自分たちの行動を考えるヒントにする。 ・いろいろな方法を出し合わせた後に、感謝を伝える方法として、自分にできることを選ばせる。
活動のまとめ	<p>がんばりカードに自分の決めたことを書く。 (実践への取り組みと続く)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばりカードを配布し、自分のめあてを記入させ、手紙やプレゼントと一緒にがんばりカードを調理師の方へ送ることを伝え、実践への意欲をもたせる。
備考	<p>事前の活動：に生活科などの時間を使って、学校探検などができると、導入の時間を短くしても良い。</p> <p>事後の活動：子どもが決めた方法を実践できるよう、十分な時間を確保する。給食室の方との交流があると良い。</p>	